行政視察報告

7月24日から26日までの3日間、次の調査項目について視察を実施しました。

お試しサテライトオフィスについて（青森県弘前市）

高山市に先駆けて、総務省のお試しサテライトオフィスの採択地となった弘前市では、弘前大学キャンパス内にサテライトオフィスを設置するといった特徴を持つ。

視察時点での申し込みは14社を数え、短期利用といった条件も鑑み、20社程度の利用を目指している。

ＩＴ系企業が大半を占め、弘前市への進出と地元雇用への期待を寄せている。

お試しサテライトオフィスでの視察

考察

大学内に設置されている強みを活かし、情報交換や共同研究、若者の確保、ＩＴインフラの充実といった企業のニーズ捉え、それを全面にＰＲした上で、移住促進の機能を持つ東京事務所や空き家対策等と連携し、庁内を横断的に取り組む姿勢が伺えた。

得た情報に対し、細やかにスピード感をもって対処しており、高山市にとっても必要な姿勢であると考える。

スマートシティ構想と雪対策総合プランについて（青森県弘前市）

「豊かな資源を活用した世界一快適な雪国 弘前」を標榜し、雪対策や地域活性化の融合を目指す。

総合的な雪対策の展開において、散水融雪設備や再生可能・未利用エネルギーの活用による融雪設備、サイドシャッター装置、除雪管理システム等、先進技術を積極的に導入しており、地域一体となった除雪体制の構築にも力を入れている。

考察

対症療法的な除排雪に留まらず、冬季も快適に外出できる「総合的な雪対策」としての取り組みは、国の事業メニュー等を活用した先進技術の積極的導入等にも余念がなく、高齢化、ゲリラ豪雪等への対策としても参考となる事例であった。

本市の行う除排雪作業で賄えない箇所への対応策の研究も深めたい。

中心市街地活性化について（北海道函館市）

年間観光客入込数560万人を超える函館市においても、中心市街地の衰退への対応は大きな課題であり、対策として、「市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり」をコンセプトに、①賑わいのある集客拠点の創出、②新たな交流を生む都市空間の創出、③魅力ある生活空間の創出に着手。

はこだてキッズプラザの大型ネット遊具

特に五稜郭周辺の本町地区では、若者を取り込んだ市民交流拠点施設（函館コミュニティプラザ・通称Ｇスクエア）を整備することにより、大幅な交流人口増加に繋がる。

同施設の年間利用目標10万人をほぼ1ヵ月で達成した。

Ｇスクエア内のインフォメーション・ロビー

考察

観光客の動向に視点を置くのではなく、主役たる市民生活の充実や、その拠点整備としての施設開放が成果をもたらした起点であると考える。

周辺に大学を含む学校施設が充実しているロケーションの有利さはあるが、若者の活気が、施設と周辺商店街との連携事業等の可能性も拡大している。

同時に次世代を担う人材育成・発掘の機能も有する取り組みとなっており、本市にとっても参考になる事例であった。

市民生活や、次世代の担い手育成といった部分に主眼をおいた施設整備の在り方、中心市街地活性化事業の拡充が望まれるのではないか。

函館市での視察